

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ  
地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間としての尊厳を大切に家庭的な雰囲気を入居者の個性を活かし日常生活の支援を行うことを理念と掲げ、実施し目立つ所に掲示している。		地域の中でその人らしく生活、暮らし続ける為には地域の人との交流を深め入居者様を理解し受容して戴ける活動を行っていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフは認知症の方を理解しその人らしく生活出来る様に支援している。又、認知症介護を支援していく上でスキルアップやモチベーションを高める為、認知症研修など受講している。		スタッフのスキルアップの為、認知症介護の質の向上を目指し今後も外部研修を受けていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の一員として生活していただける様に地域に有る食堂や販売所などに出かけ有りのままの状態を理解していただけるよう取り組みをしている。		現在は地域の食堂やJA販売所などに出かけ気持ちよく受け入れてくださっている。四季折々色々な場所に体調を整えながら出かけたいと思っている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域に高齢者が多いという事も有り、興味を示され施設見学や対象者、空き情報等、情報収集の為に気軽に立ち寄られている。又、近隣の理容、美容、コンビニなど気軽に利用させて貰っている。町内会や近隣に行事案内し参加して貰っている。		地域でボランティア活動をされている方々へ運営推進会議等を通じ地域役員の方々との交流を行っている。今後も開かれたホームとして地域活動を行っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方をホーム行事などにお誘いし、又、スタッフも地域清掃や地域の体育祭などに参加し地域に住所を有する高齢者様、敬老会への案内など頂いている。地域にある幼稚園児とも交流あり。		今年度は地域の有志の協力によりホームでのもちつき大会を開催予定している。御家族を初め近隣住民の方へ参加を呼びかけている。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	前回の運営推進会議に於いて地域の介護相談の窓口と なって欲しいと要望があり包括支援センターを巻き込んで説明会など開催している。又、地域でボランティア活動をされている方たちなど施設見学に来られ、校区の高齢者等に情報提供されている。		地域でボランティア活動を行っている方々と連携を取り相談など行い地域での困りごとなど又、認知症をかかえる家族がおられたらアドバイス等行って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘された所は改善できるよう施設全体で取り組めるよう努力している。		地域との交流が少なかった為地域住民を巻き込んで地域の方に認知症の方を理解して戴ける様努めている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者状況や介護度や事故などあれば報告し又、行事報告、地域での活動状況などを報告している。又、地域住民からの意見などを地域に活かせる様取り組んでいる。		運営推進会議へ包括支援センターの方へ出席して頂き、利用者の家族がセンターの役割などを理解してもらう良い機会となった。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質の向上やスキルアップを図る為、市町村が開催する研修会に参加している。		今後も市町村と連携を取りながら情報収集や研修会への参加機会を増やしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当施設では現在、権利擁護事業や成年後見制度を利用されている方がおられない。スタッフは権利擁護事業や後見制度があることは認識している。		今後制度などの利用を希望されたり質問などあればマニュアルを見ながら説明が出来る様指導している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは高齢者虐待防止法が有る事を認識しているが内容まで熟知していなかった為、どういことが虐待や拘束になるかを再学習している。		身体チェックは更衣、入浴、オムツ交換時など気をつけている。又、常に入居者同士などでも注意を払い見守りしている。言葉での虐待にもスタッフ間で注意している。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や同意を得る場合、不明な点を解かりやすく説明し納得して頂いている。		事業主体が変更になった為、ご理解、納得いただける様に家族会等で運営者が報告、説明を行った。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方が不満や苦情、要望があればご意見箱を設置している。又、家族会へ運営者も出席してもらっている。要望などがあれば活かせる様考慮している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族来訪時に暮らしぶりや健康状態など報告している。急ぐ時は電話やFAXを利用し報告している。又、家族会や行事の折にその都度報告する様にしている。		家族の支えは入居者様にとって重要なことであり家族と入居者様とのパイプラインになれるように信頼関係作りスタッフ全員努力している。又、ご家族もホーム全員と家族的に接していただいている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。ホーム内で解決できない時は運営者が対応するシステムになっている。(重要事項説明書)に記載している。		今回事業主体が変更になった事もあり併設の有料老人ホームとバスハイクに同行、家族よりレベルの差がある為、グループホーム単独を希望された。自己負担も増える事もあり今後の課題である。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者サイドで年一回手紙などで意見を聞いたりスタッフ懇談会で意見交換している。		管理者はスタッフの相談や提案に耳を傾け、より良い職場環境、雰囲気作りをし葛藤するスタッフの心身ケアを行い認知症介護のスキルアップ意識への向上に努めたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間帯1人での対応時、介護度の高い入居者様が夜間不穏など多く、一人での対応に苦慮することがある。夜間帯の対応は限られたスタッフにて調整が困難。家族からの要望は今のところ上がっていないため、勤務調整などは行っていないが、必要な時間帯の話し合いは行っている。		現在男性派遣スタッフ(期限付契約)がおり男性の受け入れに拒否無くスムーズに介護できている反面排泄面に於いて抵抗ある方へは女性スタッフが介助を行っている。場合によっては夜間2人も検討する余地がある。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が出来ているが認知度が高く異動や離職に伴う混乱は見られなかった。		利用者へのダメージの可能性がある場合は検討し対策を図る。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたって配慮している。経験の無い方であっても職員の技能を練磨する為、教育を行っている。又、教育、研修中は就業とみなしている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は常に念頭に入れている。差別する事無く取り組んでいる。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では段階を問わず自己研鑽の為、勉強会を開き参加を促している。法人外への研修会出席は個人、又は義務付けられている研修へ参加している。		個人のモチベーションアップや施設内の意識、質の向上を目的とし、人材育成をする。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護、福祉に関わる事業者と研修会に参加し、交流を深め情報交換を行っている。		外部研修で出会った人達と交流を深めた事で情報交換や相互的なサービスに活かせる手がかりが出来た。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者、管理者はスタッフのストレスや要望等に対応すべく相談しやすい雰囲気作りや個人面談を行っている。		認知症介護は介護者にもストレスがかかり、心身のリフレッシュが気軽に出来る様な体制作りを実施していきたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人での勉強会や外部研修に積極的に参加している。		その人に合った資格を取れる様に支援している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者一人ひとりの不安なこと等、伝えたいことをしっかり受け止め職員側から本人に短く分かりやすい言葉で伝えている。		目線を合わせ真剣に傾聴する努力を行っているが、全職員が伝えたいことをしっかり受け止められるように介護力向上させていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が気軽に訪問でき訪問時は居心地よく話しやすい雰囲気をつくっている。会話もよくしている。		家族が何でも困っている事等を話しやすい雰囲気、空間を作っていくように継続していきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その時に家族側の立場に立って考え、できる限りの確な対応に努め、他の社会資源の活用ができるように皆で勉強している。		家族とのコミュニケーションを密にして今後相談があった場合、対応していきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その人に合ったサービスを御家族と相談して自然の流れで開始している。		御家族との信頼関係を深めていき、自然にサービス支援していくよう心がけていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃の言葉かけの中で道徳的な事を教えて頂いたり、過去の生活歴を話される事もあり一緒に支えあっている。		一人ひとりの生活歴や本人にとって大切な経験や出来事を知りその人らしい暮らしの支援をしていきたい。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	少なくとも週に1度面会に来られる。毎日面会に来られるご家族もおられる為常にコミュニケーションを図っており家族的な雰囲気である。		現在、御家族の要望により連絡ノートを作成し活用している最中である。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	不穏時にはご家族の了解を得てご本人と電話で会話して頂いたり来訪して頂くことにより、良い関係の支援をしている。		いつでも和やかに御家族と接して頂けるように職員が取り持って支援していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人や親戚等の来訪時は話しやすい雰囲気作りをしている。ご家族の協力の元、自宅への外出等も行っている。		外への接触がほとんどなく馴染みの場所への外出も徐々に出来ている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の助け合いや支えあいができるように、又、孤立しがちな入居者が交わる機会を作るように世話役の入居者に力を発揮して頂くように支援している。		リビングでの茶話会時、和やかな雰囲気作りを心がけている。入居者同士がコミュニケーションを取れるように努力していきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在契約終了した利用者様と継続的な関わりを持っていないが、死亡退去となったご家族のグリーンケアを行っている。		今後の課題となるがサービス利用が終了しても介護相談や他職種と連携を取り支えていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうして欲しいかを対話をしながら望む事を察知するようにしている。しかし、不穏状態がありどうして欲しいのかわからない時、見守り等で対応している。		入居者様が自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。(選んでもらう場面を作る)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をご家族にお聞きしているが、現在浅い範囲でしか掴めていない。		一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方、好きなこと嫌いなことの情報収集をする。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々一人ひとりの様子観察に努めており、バイタルチェックなどで身体状況を把握したり、表情や行動などで、精神状況の把握を行っている。		一人ひとりの現状を把握するように努めていく。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、御家族より情報を戴き、ニーズを聞きとりケアプランの参考にし作成している。スタッフ同士でも話し合い、多方面から見たプラン作りを心がけている。		本人やご家族等と話し合う機会をもうけ、よりよいアイデアや意見が出るようそれをプランに活かせる様努めたい。来訪時、ご家族から意見を参考にする。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにケアプランの立て直し1ヶ月1回モニタリングを行うよう心がけている。今の所は状態が安定している為新たな立て直しはない。		利用者様の状態に対応できない変化が生じた場合はスタッフ問だけでなく、本人や家族などと話し合い現状に即したプランを立てる。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランサービス計画表(第2表)とサービス担当者会議(第5表)を介護記録のバインダーにはさみ常に確認できるようにしている。ケアプランに添った援助を行った際はフォーカスにチェックを入れる等で情報の共者を図っている。		介護記入に記入した情報を今後の介護計画や実践に活かすために記録はどういう援助を行いどういった様子だったかを事細かに書く様に記録を充実、モニタリングを行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じ散歩や買物に行ったり御家族の協力のもと外出したり利用者全員で近くの食堂に外食したりしている。		今後も外出、外泊ができるような支援を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	誕生会等イベントの際ボランティアの方に来ていただき歌や踊りなど催し物の協力をしてもらっている。近所に交番があり、もしもの時の為協力して頂く様声をかけている。		地域の掃除、町内の行事ごとにまずスタッフから参加し交流を図っていく。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所に際し他のケアマネジャーとの連携をとり情報を共有している。		本人の意向や必要性がある場合地域の他のサービス利用の必要性があれば検討し情報を提供していく。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進委員会を開催し地域包括支援センターの方にも参加して頂いているけれども協働までに至っていない。		本人の意向や必要性がある場合、地域の他のサービス利用の必要性があれば検討し情報を提供していく。意向や必要性がある場合、権利擁護や総合的かつ、長期的なケアマネジメント等について地域包括支援センターと協働できるよう努めたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である原病院と医療連帯体制を確立している。又近隣の歯科の往診も可能。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体である原HPで全て確保できている。必要に応じて往診も可能。一人ひとり主治医を持ち、常時、支持や助言を貰っている。		認知症が重度化した場合、専門医の受診をや指示を仰いでいる。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、相談出来る環境である。また、2Fから上が併設している有料老人ホームであり、その看護師にも相談、協力してもらっている。		入所中、治療や健康状態の観察が必要な場合、訪問看護を利用している。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	母体である原病院と常時連携体制を確立している。状態など医師や担当看護師から情報を得ている。		早期退院に向けて、受け入れの態勢を整えている。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針を作成し、契約の時に家族に説明し、同意を得ている。急変時や今後の方針を決める際は必要に応じた受診をし、医師と家族とスタッフとで方針を考えている。		終末期の看取りに向けてスタッフ教育を行っていく。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の際は、指示居と主治医と相談し、当施設での生活や病状に対応できない時、医師から家族へ説明し、入院、治療を行っている。		チームで相談、連携し「出来ること、出来ないこと」を見極め、利用者様本人にとって、よりよい生活が送れるよう支援する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えは、いまだに実施しておらず、移り住む際、ご本人の状態の観察をし、関係者でケアの仕方を考慮し、ダメージを防ぐ事に努めている。		これから住み替えする際、家族やスタッフ、その他関係者と連携を組み、環境の変化による精神的ダメージ等の防止に努めていきたい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様、一人ひとりの気持ちを出る限り尊重した対応を心がけている。又、各スタッフ言葉には十分な配慮を心がけている。記録等の個人情報の取り扱いについては、同意を得ている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の話を傾聴する事を心がけている。又、発した意思尊重を最大限引き出し、支援している。		利用者様、一人ひとりを尊重し、自己決定困難な場合、スタッフが代弁できるようにしている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースは大切に、支援している。利用者様を主体として支援している。		よりよく生活していただく為、ご本人の希望を聞き、もっとその人らしい生活ペースになるよう計画を立てていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	バスハイク等、化粧、身だしなみ等、ご本人の意思尊重を心がけている。理美容は、利用者様の自己決定で、困難な場合、御家族とスタッフの話し合いもと、決まった店を利用している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様にとって、楽しみのひとつでもある為、十分な配慮を行っている。スタッフと一緒に下準備が出来る様、支援している。出来る方には出来る事に関わって貰っている。最大限力を出している。又、手作りのおやつを提供し、楽しんで頂いている。		料理の際、利用者様が出来ることが少ない為、楽しんで頂ける様心がける。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お祭りなど大きなイベントの際、お酒を飲まれる事がある。おやつ、飲み物等、利用者様の好みを把握して、提供している。		もっと、利用者様一人ひとりに好みのものを聞き、支援して行きたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ほとんどの利用者様がオムツ又はハビリパンツを使用している為、オムツ使用しようを減らす事は難しいが、排泄時間を把握、又、利用者様の意思にて排泄して頂くよう心がけている。		排泄に不安や失敗が無い様、排泄の自立に向けて支援している。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否される時は無理をせず、入浴を希望された時は本人の意思に沿って入浴介助を行っている。		安全を重視しながら、入り方などを楽しんでいただく様、支援して行きたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣が一人ひとり違う為、個人の意思を尊重するのは難しく、自己決定が困難な時もある為、スタッフのペースになる事もある。		就寝時の個人のペースを大切にしている。夜間の不穏時、その後安心して再入眠して頂けるように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で残存機能を活かし、日々、笑顔を大切に支援している。趣味や得意とする事は、利用者様が行きやすい様に環境を整え支援している。		もっと、利用者様一人ひとりに好みのものを聞き、支援して行きたい。スタッフが蜜に関われる様に努める。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に外出する際、本人のお金を持って頂き、希望により使う事への見守り、支援をしている。本人の意向により、購入もあり。		認知症の為に、金銭面で認知できない方はいるが、出来る方は所持や使う支援をして行きたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフ、利用者様共に歩いて行ける範囲で、利用者様の気分により、近場の外出を実施している。その際は車椅子を使用する事もある。不穏時、歩行訓練の為に、玄関前までの外出支援を実施している。		車を使っの気軽な外出、ご家族からの協力のもと、気分転換を兼ねた外出の実施を支援して行きたい。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事ごとに、花見、バスハイク、外食等、利用者全員と、ご家族も参加出来る方はしていただいている状況。個別ケアとして、本人帰宅願望時、ご家族受け入れ可能時、定期的な帰宅が出来ている。		最近では、歩いていける定食屋へ行くことが出来た。一人ひとりが行ってみたい場所等、可能な限り、ご家族の協力を得て、外出の計画の支援をする。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が不穏時、TEL希望あれば、TELして頂いている状況である。利用者様からの手紙は出していないが、年賀状は少しでも書いて出している。		年賀状だけではなく、定期的に、手紙を書いて出せる様な支援を行う。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、来訪者の希望に沿い、自室又はリビング、時には外出、と過していただいている。一緒にお茶や手作りお菓子等を食べていただき、和みの雰囲気づくり工夫している。		尚且つ、もっとアットホームにしたい。手作りおやつなど、ホームで一緒に食べて頂きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間はリビングにて、自由に過して頂いている。夜間、3名のみベッド2点柵を使用中。センサーマットを使用していない為、転倒、転落予防を考慮し、ベッド柵に鈴をつけて対応している。		すでにご家族に同意を得ている。臥床時のみ、転倒、転落予防の為に柵を使用している。拘束の時間を減らせるように努力している。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵の無い部屋でケアを実施している。手動式扉にしている。玄関は、2Fから上は併設の有料老人ホームということもあり、来客多く、又、外部のセールス、不審者等の危険人物から守る為、解除式扉の同意を得ている。		ご家族に施錠の同意を得ている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在や状態観察は行っている。夜間、入居者様によっては立位不安定の為、転倒、転落防止のために、扉を開けている事もある。		夜間、扉を開けて見守りを行う事で、転倒リスクが減っている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	芳香剤等、異食の危険がある方は、手の届かない所への管理をしている。コール等、首に絡まる危険のある方は、外している。(1名)		危険度にもよるが、出来る限り、自然なまま生活をして頂きたい。包丁は昼間はキッチンから、夜間は食品庫で保管する様にしている。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生してしまった際、必ずヒヤリハット等、事故報告関係者全員が状態を把握し、その後の対応を考慮している。研修や勉強会参加も同時に行っている。		事故を防ぐ為に、又、ヒヤリハットを活用し、再発防止に繋がるように取り組んでいる。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に原病院で応急手当、急変時などの訓練は行っており、参加している。緊急時の対応の紙をスタッフ出入り口に貼り出している。		当施設での緊急、急変時の対応の訓練、勉強会を定期的に行っているが、自分の技術を取得する様に学習する。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防訓練の実施。(年に2回)消火器や、消火栓の使い方の技術を学んでいる。		今後も、昼の部、夜の部、消防訓練を実施していき、地域住民の協力をして頂ける様働きかける。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクの高い方のご家族へは日々、報告している。関連医療機関との連携をとって、対応している。		起こりうるリスクについては、ご家族と十分な話し合いをしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りの他に、スタッフ同士の情報共有は常に行う。利用者様の日々の様子観察をし、異変等の早期発見に努めている。		観察をして、些細な変化も見逃さず、早期発見に努める。その後、受診へと繋げている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時、スタッフ全員が必ず目を通す申し送りノートへの記入、口頭での情報の共有をし、その後副作用にも気を付けている。内服薬が困難な方には、飲める様に支援している。		新しく変更になった薬は、申し送りノートの活用など、スタッフ全員が認識している。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表に記入し、排泄パターンを把握するよう努めている。水分摂取を常時行う等、なるべく自然排便が行えるよう支援を心がけている。排便が無い日が長く続く場合には腹音を確認する等、状態を観察した上で、本人持ちの坐薬や内服薬を使用し排便を促す事もある。		なるべく自然排便が出来る様に、水分や繊維の多い食物等や、体操や散歩等、適度な運動を取り入れている。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。出来ない方にはスタッフが支援している。なるべく自力で頂く様にしている。		拒否される方に対しては、時間を置いたりして支援している。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理の下、栄養バランスが取れた食事を提供している。水分はチェック表により把握している。水分不足の方は本人の好む飲み物で補給している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、消毒等を励行している。外部よりの訪問者にはうがい、手洗いを実施してもらっている。寝具類を日光消毒している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	配達されたものは直ぐに冷蔵庫に保管している。調理器具は毎日ハイター消毒をしている。毎日検食を取っている。		出来るかぎり鮮度の良い食材を使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安全の為に施錠を行っているが、訪問者はインターホンで直ぐに開くように対応している。		施設が少し入り込んだ位置にあるので、立て看板を設置し、入り口が分かりやすいように工夫している。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせるような花を、玄関やリビングなどに常時飾っている。和室が有り、昼寝等してつづいで貰っている。		昔なじみのある生活用品などを設置し、季節感を味わって頂きたい。

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いに意思疎通が出来なくても、側にいるだけで安心され、思い思いに過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お茶碗や、家具、お人形等、昔から使い慣れた愛着の有るものを持参し、使用されている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや居室に温度計を設置し、常に環境を整えている。臭いが気にならないようにトイレに芳香剤を置いている。		掃除の時や適度な時間に、換気を行い空気がよどまないように心がけている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内やトイレに手すりを設置し、バリアフリーにしている。フローリングも衝撃を吸収する素材になっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱時、不穏時は声掛けや話を傾聴、対話を持って、安心して暮らせるように支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチを設置し、外でのお茶会などで楽しんでいる。裏には畑もあり、収穫時には一緒に行っている。		

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

グループホーム ライフエイド柏原ミルテ

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない